

第2節

中学生

1. 中学1年生

中1生は学習面での変化が著しい。平日の家庭学習時間では、「ほとんどしない」という回答が23.5%にまで拡大し、およそ4人に1人の割合になる。学習に対する否定的な意識も増大し、学習意欲の低下、学習目的の喪失、学習方法がわからない悩みなどの増大がみられる。

◆生活時間やメディア接触について

中学に入ると、子どもの生活は大きく変化する。たとえば、就寝時刻は平均で35分も遅くなり、午前0時を過ぎても起きている子は、小6生11.3%→中1生26.9%となる。

遊び場をみると、「友だちの家」（「よく遊ぶ」＋「ときどき遊ぶ」、小6生63.3%→中1生45.7%）、「自分の家」（同62.4%→55.2%）、「学校の運動場（校庭や体育館）」（同41.5%→16.3%）、「公園や広場など」（同47.7%→28.4%）といった身近な地域が低下する。

次に、メディア活用であるが、パソコンの利用率は小学生のころと大きくは変わらないものの、使い方として多かった「ゲームをする」（複数回答、小6生65.5%→中1生56.0%）が減少し、代わって「インターネットで趣味や遊びのことを調べる」（同54.7%→65.1%）が増加する。携帯電話の所有率は、小6生から13.0ポイント増え、35.0%（男子29.4%、女子41.1%）となる。

◆人間関係や自分自身について

中1生は、親子のなかで勉強や成績のことが話題になることが多くなる。両親との会話では、「勉強や成績のことについて」の会話が増える（「よく話をする」＋「ときどき話をする」、父親・小6生34.8%→中1生43.0%、母親・同52.4%→65.2%）。

意識面では「成績」に関する満足度の低下がみられる。「現在の自分の成績」に満足

（「とても満足している」＋「まあ満足している」）しているのは、小6生51.9%→中1生31.2%と20ポイント以上も低下する。

自分自身については、「自分の外見（顔やスタイル）が気になる」（「とてもそう」＋「まあそう」、小6生39.8%→中1生48.0%）、「つかれやすい」（同51.8%→57.9%）、「つまらないことですぐに落ち込む」（同29.4%→34.5%）など、否定的な項目で比率が高まる。

◆学習について

学習面での変化は、とくに顕著である。たとえば、平日の家庭学習時間をみると、「ほとんどしない」が小学生では1割に満たなかったが、中1生になると23.5%に拡大し、学習から離れてしまう子が増える。

学習に対する否定的な意識が一気に増大するのも、中1生の特徴である。「勉強しようという気持ちがわからない」（「とてもそう」＋「まあそう」、小6生39.7%→中1生53.9%）、「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」（同37.9%→51.7%）、「上手な勉強の仕方がわからない」（同45.6%→65.3%）などが大幅に増加し、「親に言われなくても自分から勉強する」（同49.1%→40.3%）などの自主性は低下する。「難しい問題をじっくり考えること」（「とても得意」＋「やや得意」、小6生45.7%→中1生35.5%）、「ものを覚えること」（同62.3%→55.2%）などの学習上の苦手意識も増大する。

2. 中学2年生

学習面では高校受験を意識しはじめるものの、実際の家庭学習の時間は少ない。平日、家庭では学習を「ほとんどしない」という比率が27.3%に達する。それに対して、長時間テレビを見たり、テレビゲームをしたりする子が多い。親子関係では、肯定的なかかわりが減少し、会話量も減る。友だちとは携帯電話やパソコンを通じたコミュニケーションが増える。

◆生活時間やメディア接触について

中2生は、長時間テレビを見たり、テレビゲームをしたりする子が多いのが特徴的である。テレビを「2時間以上」（「2時間くらい」～「3時間以上」）見る子は72.3%、テレビゲームを「2時間以上」する子は29.4%で、対象学年を通じて最も多い。パソコンの利用も増え、家で「週に5日以上」使うと回答するのは、中1生13.7%→中2生21.2%である。これらは、中2生がピークである。

パソコンの使い方に注目すると、インターネットでの情報検索が多いことは中1生と変わらないが、「電子メールをやりとりをする」（同20.0%→29.6%）、「チャットをする」（同12.2%→15.0%）など、コミュニケーションツールとしての利用が増加する。携帯電話を持つ女子は過半数に達するが、「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」「電話やメールがこないときみしくなる」などを肯定する比率が他の学年よりも高く、所有する子の依存傾向も強い。

◆人間関係や自分自身について

親とのかかわりをみると、「勉強を教えてください」が中1生51.3%→中2生31.7%と大幅に減る。学習内容が高度になって、保護者が教えることが困難になるようである。このほかにも、「あなたのことを大人として扱ってくれる」（同13.5%→9.6%）が全学年を通じて最低値を示すなど、肯定的なかかわりの減少幅が大きい。両親との会話量も減る。たとえば、母親との会話では、「学校でのでき

ごとについて」（「よく話をする」＋「ときどき話をする」、64.5%）、「勉強や成績のことについて」（同58.6%）、「友だちのことについて」（同53.7%）、「社会のできごとやニュースについて」（39.4%）の4項目で、最低値を示す。

自分自身については、「つかれやすい」（「とてもそう」＋「まあそう」、中1生57.9%→中2生65.5%）、「つまらないことですぐに落ち込む」（同34.5%→41.9%）など、否定的な感情が中1生から継続して増加している。

◆学習について

平日の家庭学習を「ほとんどしない」生徒はさらに増え、中1生23.5%→中2生27.3%となる。学習の平均時間は47分に過ぎず、対象となった8学年のなかで、最も短い。

このころから、学習面では高校受験の影響が表れはじめる。「学習塾や予備校に行っている」のは、中1生36.0%→中2生44.9%となる。このうち約4割が進学塾に通っている。学習目的については、依然として「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」（「とてもそう」＋「まあそう」、中1生51.7%→中2生58.3%）が増加しているものの、「受験を目標にして勉強する」（同33.7%→44.4%）、「資格試験や検定試験（英検、漢検など）を受けるための勉強をする」（同25.9%→33.1%）も増えている。また、学習動機でも、「いい高校や大学に入りたいから」（「とてもそう」＋「まあそう」、中1生62.1%→中2生67.9%）という意識が増加している。

3. 中学3年生

高校受験が生活や学習のさまざまな面で影響を与える学年である。就寝時刻が遅くなり、睡眠時間が減少するとともに、学習時間は大きく増える。3人に1人が、「2時間以上」学習すると回答している。親子の間でも、成績や進路の話題が増える。受験を意識するためか、新聞を読む、ボランティアをするなどの比率が高まる。

◆生活時間やメディア接触について

平均の就寝時刻は午前0時を超える。起床時刻は6時58分で対象学年のなかで最も遅い。中3生は、遅く寝て、遅く起きるスタイルである。テレビ視聴は、「2時間以上」（「2時間くらい」～「3時間以上」）見る比率が中2生72.3%→中3生67.7%に、テレビゲームは、「2時間以上」する比率が29.4%→20.3%に減少する。こうした変化は、学習時間の増加と関連していると推察される。

これ以外にも、高校受験は生活のさまざまな面に影響を与えているようである。たとえば、「新聞の記事を読む」（「よくある」＋「ときどきある」、中2生35.2%→中3生42.8%）、「テレビのニュース番組を見る」（同74.0%→77.2%）、「ボランティア活動をする」（同9.6%→15.5%）などの機会が増える。その半面で、「体を使って遊ぶ（スポーツなど）」（同61.5%→50.4%）は減少する。受験を考慮した生活をしているようである。

◆人間関係や自分自身について

両親との会話では、成績や進路についての話題が増える。「将来や進路のことについて」話をする（「よく話をする」＋「ときどき話をする」）のは、父親とは中2生27.7%→中3生42.0%、母親とは47.5%→71.0%である。

この時期、若干ではあるが、親への否定的な感情が高まるのも特徴的である。「何でもすぐ口出しをする」（36.0%→40.5%）は全学年を通じて最も数値が高く、「考えをおしつ

ける」（17.5%→22.8%）を選択する比率も、中2生から5.3ポイント上昇している。

友だち関係では、「違う意見をもった人とも仲良くできる」（「とてもそう」＋「まあそう」、中2生69.5%→中3生75.0%）、「年齢や性別の違う人と話をするのが楽しい」（同49.0%→53.9%）と感じるようになる。つきあっている異性は、「いる」11.8%、「以前はいたが今はいない」25.5%で、中学時代につきあった経験があるのは3人に1人にのぼる。

◆学習について

学習面では、高校受験の影響が色濃く表れる。平日の家庭学習時間は、「ほとんどしない」が中2生27.3%→中3生16.3%と10ポイント以上減少し、「2時間以上」（「2時間くらい」～「3時間以上」）は12.5%→35.2%に拡大する。受験が学習ばなれの歯止めとして機能していることがわかる。塾は6割が通う。

意識面でも、中2生までは継続して肯定的な回答が減り、否定的な回答が増加していたが、中3生はこの傾向に歯止めがかかる。「わからないことがあると『もっと知りたい』と思う」（「とてもそう」＋「まあそう」、中2生58.5%→中3生66.3%）、「親に言われなくても自分から勉強する」（同38.8%→51.9%）、「受験を目標にして勉強する」（同44.4%→73.7%）など、受験を目標に前向きに学習している。ただし、「学校の先生が自分をどう評価しているか気になる」（同56.6%→60.0%）という思いも、6割がもっている。